

結婚哲学 (1924)

THE MARRIAGE CIRCLE

メディア 映画
ジャンル コメディ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 86分
初公開日 1924/10
公開情報 劇場公開

【解説】

ルビッチが前年のチャップリンの「巴里の女性」に刺激され作ったと言われる（あちらは結婚をめぐる悲劇だが）、二組の夫婦と一人の独身男性が織りなす恋愛模様を描く喜劇で、浮上するのはそのうちでも、F・ビダー扮する若妻と夫（M・ブルー）、その友人で彼女に恋する独身男の三角関係。妻は夫と、彼を一方向的に愛する人妻との仲を疑うが、結局は何もなかったことが分かる。逆に夫は何かあったと疑われるのを畏れている。一方で妻は、酔って夫と間違えて友人とキスを交わしてしまい、お互いに平謝り。そこへ当の友人が招き入れられ、事実の有無の確認がそれぞれの気配りの中、視線で行なわれ、誤解をそのままに幸福な終幕を迎えるあたり、ルビッチの洗練は極まりを見せる。トーキーになってからの彼の方向を決定づけることになる名作。

【クレジット】

監督	エルンスト・ルビッチ	Ernst Lubitsch
原作	ロタール・シュミット	Lothar Schmidt
脚本	パウル・バーン	
撮影	チャールズ・J・バン・エーガー	
出演	アドルフ・マンジュー	Adolphe Menjou
	マリー・プレヴォー	Marie Prevost
	フロレンス・ヴィダー	Florence Vidor
	モンテ・ブルー	Monte Blue